

噴霧式経鼻インフルエンザ^生ワクチン フルミスト

フルミストは、インフルエンザ予防のための経鼻弱毒生ワクチンで、
A (H1N1) 型、A (H3N2) 型、B型(ビクトリア系統)の計3種類の低温馴化されたワクチン株が含まれています。
不活化インフルエンザHAワクチンと違い、痛みがほとんどありません。

フルミストの利点

- ・鼻に噴霧するだけなので痛くありません。
ただし、大泣きしている小児では、ワクチンが鼻から流れ出てしまい、効果が弱まってしまうことがあります。
- ・全身の免疫に加えて気道粘膜免疫を誘導できます。
インフルエンザウイルスは、気道の粘膜に感染を起こして増殖し、全身に広がります。不活化インフルエンザワクチンでは、血液中にインフルエンザウイルスに対するIgG抗体（免疫物質）が作られることで、インフルエンザウイルスが全身に広がるのを抑えます。このIgG抗体は気道粘膜には存在しませんので、気道への感染そのものを抑えることはできません。つまり、感染そのものを防ぐというよりは、「重症化を防ぐ」作用が主になります。それに対し、経鼻インフルエンザ生ワクチンは、実際に気道（鼻）の粘膜で弱毒化されたウイルスが増殖するため、気道粘膜でインフルエンザウイルスに対するIgA抗体が作られます。このIgA抗体は、インフルエンザウイルスが気道粘膜に感染を起こし増殖しようとするのを抑えますので、感染を阻止することができます。またインフルエンザウイルスの多少の変異に対しても対応することが可能です。

副反応

弱毒化され病気を起こす力（病原性）はほとんどなく、さらには比較的高温の下気道（気管支・肺）では増殖できないため、重篤な副作用はまず起こりません。

鼻粘膜に感染させるため、約半数の方に鼻水、鼻詰まりなどの軽い鼻炎症状がみられます。小児では発熱がみられることもあります。もちろん、不活化インフルエンザワクチン同様、ごくまれにアナフィラキシーショックやギラン・バレー症候群などの重篤な副作用が起きる可能性もあります。

接種できない方

- ・明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ・重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ・過去に本ワクチンに含まれている成分で、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
- ・明らかに免疫機能に異常のある疾患をお持ちの方、免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ・経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している方
- ・妊娠していることが明らかな方
- ・その他、医師が予防接種を受けることが不適當と判断した方

接種前に医師と相談して頂く方

- ・ゼラチンに対して重度のアレルギーのある方
- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある方
- ・過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性の発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ・過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ・免疫不全のある方
- ・日常生活や職務上、免疫不全のある人と接触される方
※ワクチン接種後1～2週間は、ワクチンウイルスが鼻咽頭分泌液中から検出されます。
日常生活や職務上、免疫不全のある人と接触される方は接種できません。
- ・重い喘息のある方または喘鳴の症状のある方
- ・重度の卵・鶏肉にアレルギーのある方
- ・発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている方
- ・妊娠中または妊娠の可能性のある方（接種前1か月間避妊していない方）、授乳中の方
- ・サリチル酸系医薬品（アスピリンなど）、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用している方